

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間										KPI(重要業績評価指標)							外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)														
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)		目標値 (年度)													
1	市民自治都市岸和田プロジェクト	市制施行100周年記念事業の実施	ロゴマーク、キャッチフレーズの募集・決定																			協賛事業の提案件数	-			16件 (R3)	20件 (R3)	・多くの市民・団体が参加できるよう工夫がされている点が評価できる。 ・100周年記念事業の実施が一過性で終わることなく、引き続き、市民・団体が主体的に活動を進めていけるよう新しい取組につなげる必要がある。							
			周知・広報事業																																
			実行委員会の管理・運営																																
			協賛・冠事業の募集・決定																											冠事業の申請件数	-			11件 (R3)	20件 (R4)
			実行委員会事業の実施																																
			市主催事業の管理・運営																																
2	出産・子育て支援プロジェクト	安心して出産できる医療体制の整備	市民病院における産婦人科の充実(分娩手当+奨学金助成)																		分娩数	58件 (H26)	146件 (H27)	117件 (H28)	131件 (H29)	148件 (H30)	141件 (R1)	136件 (R2) 819件 (R2年累計)	134件 (R3) 953件 (R3年累計)	1,157件 (R4年累計)	・年間分娩数に大きな変化はないことから産婦が何を望んでいるのかアンケート調査を実施したり人口などの基礎データを活用するなど、他市比較や蓄積データの分析をすることで、根拠を整理し、安心して出産できる環境の提供は現状で十分なのか、必要な要素は何か、検討・改善できるのではないか。				
3	出産・子育て支援プロジェクト	妊産婦・新生児・乳児への訪問・相談	ママにっこり相談																			相談件数	-			923件 (H28)	1,649件 (H29)	1,877件 (H30)	4,313件 (R1)	5,782件 (R2)	6,767件 (R3)	5,000件 (年間延べ件数)	・ニーズに応じたサービスが提供されており、着実に増加している点が評価できる。 ・相談内容を整理するなど、2次対応として何が求められているのか分析し、合わせて、庁内共有・連携をはかることで、より充実した子育て支援につながるのではないか。		
			フォロー訪問指導の実施																																
			利用者支援事業																																
4	出産・子育て支援プロジェクト	健診未受診者に対する訪問	乳幼児健診未受診者家庭を訪問																		未受診者訪問割合	-	100% (H27)	100% (H28)	100% (H29)	100% (H30)	100% (R1)	100% (R2)	100% (R3)	100% (R4)	・引き続き漏れがなく、100%を維持していく必要がある。				
5	出産・子育て支援プロジェクト	産後ケア事業の実施	心身のケアや育児のサポート等の実施																			利用日数	(宿泊型)9日 (デイサービス型)3日(R3.2~3月)							(宿泊型)9日 (デイサービス型)3日(R3.2~3月)	(宿泊型)51日 (デイサービス型)7日(R3)	(宿泊型)36日 (デイサービス型)12日(年間)	・対応件数が増加しているが、アンケートで改善した人の割合で100%を達成していることが評価できる。		
				利用後アンケートにおいて利用事由が改善した人の割合	100% (R2)																														
6	出産・子育て支援プロジェクト	子どもの医療にかかる費用に対する助成を継続	対象年齢の拡充(中学校3年生まで)																			子育て家庭の不安や負担の軽減対策に対する市民の満足度(市民意識調査の満足度調査の数値を指標として活用。満足度とは、満足率(『満足』『まあ満足』と回答した人の割合)から不満率(『不満』『やや不満』と回答した人の割合)を差し引いた数値。)	-15.5% (H26)	-10.2% (H28)	-10.6% (H29)	-10.7% (H30)	-8.6% (R1)	-6.3% (R2)	-10.0% (R3)	実施なし	現状維持(-10.7%) (R4)	・子育て世代のニーズが高く、引き続き現状の取組を継続していくことが重要。 ・満足度にかわるKPIの設定が必要である。			
			医療費助成の実施																														子育て家庭の不安や負担の軽減対策に対する市民(20~40代)の満足度	-20.9% (H26)	-14.5% (H28)

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間										KPI(重要業績評価指標)										外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (年度)			
7	出産・子育て支援プロジェクト	様々なニーズに対応する保育環境の整備	教育・保育施設の整備	→										保育所待機児童数	42人 (H27)	31人 (H28)	23人 (H29)	38人 (H30)	29人 (H31)	27人 (R2)	16人 (R3)	25人 (R4)	0人 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>待機児童数を減らすため、引き続き重点的に取り組むことが必要。</li> <li>チビッコホームの定員拡大の取組により、待機児童の減少の効果が伺えるため、引続きの取組が必要。</li> </ul>
			民間保育施設の運営支援	→										病児保育施設の利用登録者数	265人 (H27)	265人 (H27)	318人 (H28)	303人 (H29)	307人 (H30)	289人 (R1)	152人 (R2)	140人 (R3)	350人 (R4)	
			病児保育事業の実施	→										チビッコホーム待機児童数	216人 (H27)	109人 (H28)	83人 (H29)	106人 (H30)	97人 (R1)	76人 (R2)	40人 (R3)	28人 (R4)	0人 (R4)	
			チビッコホーム増設による定員拡大	→																				
8	教育環境充実プロジェクト	児童生徒への支援体制の充実	心理カウンセラー(5名)の配置	→										小学校における不登校児童の割合	0.6% (H26)	0.7% (H27)	1.0% (H28)	1.1% (H29)	1.0% (H30)	1.1% (R1)	1.3% (R2)	2.3% (R3)	0.4% (R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校児童生徒の割合については、基準値よりも低く、低下傾向が続いている。追加的に取り組んでいく必要がある。</li> <li>子どもたち一人ひとりの個性を尊重しながら、様々な「学び」ができる、支援環境を整備・充実させる必要がある。(ICT機器の活用はもちろん、メタバースを活用した活動機会の提供なども検討されたい。)</li> </ul>
			エスバル指導員の配置	→																				
			スーパーバイザー(精神科医)の配置	→																				
			PTA協力者	→																				
			スクールロイヤーの配置	→										中学校における不登校生徒の割合	4.1% (H26)	4.4% (H27)	4.5% (H28)	5.4% (H29)	5.8% (H30)	5.9% (R1)	5.9% (R2)	7.1% (R3)	2.6% (R4)	
			スクールカウンセラーの配置	→																				
			スクールソーシャルワーカーの配置	→																				
			子ども支援員の配置	→										小中学校におけるいじめ解消率	72% (H26)	94% (H27)	84% (H28)	36% (H29)	53% (H30)	52% (R1)	81% (R2)	98% (R4.6月末)	85% (R4)	
			幼稚園支援コーディネーターの配置	→																				
			スクールサポーターの配置	→																				
			不登校児童生徒支援員の配置	→																				
生徒指導支援員	→																							
9	教育環境充実プロジェクト	特別支援教育の充実	特別支援教育支援員の配置	→										小中学校における支援学級等支援者(介助員+特別支援教育支援員)の数	26人 (H27)	26人 (H27)	34人 (H28)	34人 (H29)	35人 (H30)	40人 (R1)	45人 (R2)	48人 (R3)	60人 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を実施している児童生徒の保護者に対してアンケートを実施し、一つの項目として「支援の充実度」を測りアウトカム指標とするのはどうか。</li> <li>また、アンケートを行えば、結果から、望まれている支援の分析にもつなげることができるのではないか。</li> </ul>
			巡回相談体制充実事業	→																				
			介助員の配置	→																				
10	教育環境充実プロジェクト	外国語教育の充実	小中学校における英語指導の推進のため、外国人指導助手(ALT)、外国語活動補助員(小学校)を派遣	→										英語の学習が好きと答える児童(小学生)の割合	33.9% (H25)		45.6% (H28)	41.0% (H29)	44.2% (H30)	56.6% (R1)	実施なし	67.2% (R3)	43.5% (R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生は目標を達成していることが評価できる。中学生においても基準値からの改善が見られる一方で、目標達成にはいたっていないことから、より、中学生の興味を引くような指導・取組を検討・実施されたい。</li> </ul>
			小学校英語教育研修の支援	→										英語の学習が好きと答える生徒(中学生)の割合	21.4% (H25)		26.4% (H28)	27.0% (H29)	29.2% (H30)	22.8% (R1)		25.1% (R3)	31.5% (R4)	

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間							KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)				
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値(H27)	実績値(H28)	実績値(H29)	実績値(H30)	実績値(R1)		実績値(R2)	実績値(R3)	目標値(年度)	
11	教育環境充実プロジェクト	学校園におけるICT環境の構築	小・中学校情報システムの構築	→							小中学校1クラスあたりのICTを活用した授業の時間数(週平均)	約1時間(H26)	1.37時間(H27)	1.67時間(H28)	1.85時間(H29)	2.99時間(H30)	4.22時間(R1)	4.89時間(R2)	5.71時間(R3)	5時間(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間数の平均が向上していることが評価できる。一方で、中学生のICT使用率が低下している。(自宅での使用であれば、指標名をわかりやすくする必要があるのではないか。)タブレット端末は、持ち帰りによる学習や保護者との連絡等にも活用可能であることから、効果的に運用し、児童・生徒の情報活用能力の育成に引き続き取り組まれない。</li> <li>令和4年度の校務ICT化に向けて、事務負担軽減等のアウトカム指標の検討が必要である。</li> <li>子どものスキル向上は、子ども自身の将来に影響してくるため、引き続きスキルアップに取り組んでほしい。</li> <li>また、教育が充実すれば人口増加や市の活性化につながる。</li> <li>ICT支援員に対して、児童生徒への支援と、教員への助言という二つの役割が求められていることが大変なのではないか。特に、教員への助言は難しく、要求される能力が高くなってしまふ。国の目標(4校に1名の配置)達成には、大きな壁があると思う。一方、児童生徒への支援については、事業者などからボランティアを募ることも考えられる。事業者と連携しながら学校のサポートに回れば、さらに改善する余地があると思う。</li> <li>学校での指導のほか、家庭におけるリテラシー教育を行わないと、正しい使い方にならない。</li> </ul>		
			GIGAスクール構想に基づく小・中学校ICT環境の整備								→	コンピューター等のICTをほぼ毎日又は週1回以上使用したと答える児童・生徒の割合【小学校】						23.8%(R1)		37%(R3)		100%(R4)	
			小・中学校におけるICTを活用した情報教育の研究・推進									→	コンピューター等のICTをほぼ毎日又は週1回以上使用したと答える児童・生徒の割合【中学校】						24.6%(R1)			20.2%(R3)	100%(R4)
			ICT機器を活用した授業の支援									→											
			子どものICT機器操作支援										→										
			ICT機器を活用した授業の研修・教材作成										→										
12	教育環境充実プロジェクト	中学校給食の実施	中学校給食の実施																	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、生徒に安心・安全な給食の提供する必要がある。</li> </ul>			
			地場農産物利用のための調整																				
13	教育環境充実プロジェクト	市立産業高等学校市民公開講座(アーチェリー講座)の実施	市民公開講座(アーチェリー講座)の実施	→							講座参加者数	-	7人(H27)	15人(H28)	20人(H29)	20人(H30)	12人(R1)	開催なし	13人(R3)	20人(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代の育成を図る視点での事業実施であるため、応募者を募るだけでなく、アウトリーチにより市内小中学校を訪問し、児童・生徒にアーチェリーをつうじた教育機会を提供するなどの取組も必要ではないか。</li> </ul>		

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間									KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)														
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)		目標値 (年度)													
14	教育環境充実プロジェクト	子どもたちの学力向上に向けた取組の推進	岸和田市学力調査の実施・分析																			全国学力・学習状況調査における全国正答率との差【小6国語】	▲10.8p (R1)	▲10.8p (R1)	▲9.7p (R3)	0p (R4)	・令和2年度から新たに学習支援員の配置、学びの土台づくりの推進、授業改善推進支援に取り組んでいる点が評価できる。加えて、ICT環境の整備が個別最適化された学びの実現を目的として、R3年度には整備が完了することから、今後も実績について注視していく必要がある。 ・学力向上には、継続的に地道な支援が必要である。 ・家庭学習の推進など、学校環境以外での学習も重要であるため、家庭学習環境を充実させる取組も必要ではないか。合わせて、保護者との連携を深めることも必要であり、児童・生徒それぞれの個性にあった学力の向上に向けた取組を推進されたい。								
			授業改善アドバイザーの派遣																									全国学力・学習状況調査における全国正答率との差【小6算数】	▲6.6p (R1)	▲6.6p (R1)	▲6.2p (R3)	0p (R4)			
			放課後学習支援の実施 (小学校3～5年生対象)																											全国学力・学習状況調査における全国正答率との差【中3国語】	▲9.8p (R1)	▲9.8p (R1)	▲9.6p (R3)	0p (R4)	
			学習支援員の配置																												全国学力・学習状況調査における全国正答率との差【中3数学】	▲7.8p (R1)	▲7.8p (R1)	▲9.2p (R3)	0p (R4)
			学びの土台づくりの推進																																
			授業改善推進支援																																
15	教育環境充実プロジェクト	子どもの読書活動の推進	子どもに魅力のある資料の充実																				読書が好きなお子どもの割合(全国平均との差)【小学校】	▲6.1p (R1)	▲6.1p (R1)	実施なし	0p以上 (R4)		・新たに設定されたKPIについては、小中学校でまとめるのではなく、小学校、中学校で別に設定する方がより実情を把握できるのではないかと。						
			読書活動を支える人材の確保・育成																									読書が好きなお子どもの割合(全国平均との差)【中学校】				▲9.4p (R1)	▲9.4p (R1)	実施なし	0p以上 (R4)
			学校司書の派遣 (R2年度まで学校図書館コーディネーター)																											児童・生徒が学校図書館で本を借りた平均冊数(年)【小中学校】		-	-	18.2冊 (R3)	20冊 (R4)
			ブックスタート事業																																
16	みんなで支えあいプロジェクト	みんなが集える居場所づくり支援を検討	活動の立上げに際して、民間助成金の紹介を行うなど自主的な財源確保を支援(社会福祉協議会と連携)																				リビング立上げ支援件数	-	6件 (H28)	5件 (H29)	5件 (H30)		6件 (R1)		3件 (R2)	2件 (R3)	5件/年	・地域内のつながりを強化し、地域自治の推進に寄与しているため、継続的な取組が必要。	
			活動強化に向けた手法の検討																																
17	みんなで支えあいプロジェクト	教育・子育てを通じた協働によるコミュニティ力の強化	学校支援地域本部の実施																				ボランティア数	570 (R1)				570 (R1)	426 (R2)	474 (R3)	685 (R4)	・地域内のつながりを強化するとともに、多様な人材の活躍を推進することに寄与しているため、継続的な取組が必要。 ・担当課がボランティアの高齢化を指摘している。ボランティア数確保のため、各校PTAを通じた保護者(自営業者・主婦(夫)等)への働きかけなども検討されてみてはどうか。			
			放課後子ども教室の実施																																
18	みんなで支えあいプロジェクト	男女がともに活躍するまちづくり	男女共同参画に関する学習機会の提供																				審議会等における女性の割合	35.3% (R2)	31.7% (H27)	31.1% (H28)	33.0% (H29)	29.7% (H30)	32.5% (R1)	35.3% (R2)	33.2% (R3)	40%以上 60%以下 (R4)	・前年度よりポイントは下がっているものの、ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくることに寄与しているため、継続的な取組が必要。		
			意思決定の場における女性の参画の促進																							男女がそれぞれの能力を十分に発揮しあい、あらゆる場面で協力しあっていると感じている市民の割合	25.4% (R2)	20.5% (H27)	23.6% (H28)	24.4% (H29)	22.5% (H30)	22.6% (R1)		25.4% (R2)	23.3% (R3)



No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間										KPI(重要業績評価指標)										外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	目標値 (年度)		
19	まちの拠点形成プロジェクト	公共交通のあり方を検討、利便性を向上	路線バス・コミュニティバスにICカード等導入支援	→										市内で運行されているバスの1日平均乗車人数	3,827人(H26)	3,861人(H27)	3,691人(H28)	3,612人(H29)	3,298人(H30)	3,159人(R1)	2,524人(R2)	2,298人(R3)	4,100人(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通まちづくりアクションプランの策定、地域運営のコミュニティ交通に対し支援を行うなど事業展開をはかっている点が評価できる。</li> <li>令和4年度に策定予定の交通まちづくりアクションプランで設定される各指標管理を適切に行うとともに、引続き、公共交通のあり方の検討・利便性の向上をはかる必要がある。</li> <li>公共交通の維持については、他の団体でも苦しんでいるところ。路線バスなど既存の交通手段だけでなく、オンデマンドバスなどの実証など、人口減少に対応する取組を進めていくべきである。</li> <li>取り組む場所によって目的は変わる。最近タクシーのサブスクリプションなど、形態が多様化している。一つの取組だけではなく、色々ミックスして課題を解決していくべきである。</li> <li>和泉中央へのバス路線設定の目的は何か。例えば、地域住民のためならデマンドバスの方がいいなど、目的と手段をマッチさせて考えなければ意味がない。また、すでに和泉中央～ららぽーと和泉間のバス路線があると思うので、和泉市と連携してその路線を延長してもらうなどすれば、公費が圧縮できるかもしれない。</li> </ul>
			法的要件に適合した新たな会議体の設立(附属機関の公共交通検討委員会を改組)	→										生きがいを感している65歳以上の市民の割合	52.6%(H27)	51.5%(H28)	47.3%(H29)	49.3%(H30)	50.8%(R1)	44.6%(R2)	49.1%(R3)	49.8%(R4)	49.3%(R4)	
			交通まちづくりアクションプラン策定	→										高齢者が安心して生活できていると感じている市民の割合	18.1%(H27)	20.7%(H28)	21.1%(H29)	22.2%(H30)	19.9%(R1)	25.6%(R2)	22.0%(R3)	27.7%(R4)	22.2%(R4)	
			交通まちづくりアクションプランに基づく事業の実施(ローズバスダイヤ改正、利便性向上等)	→																				
20	まちの拠点形成プロジェクト	JR阪和線東岸和田駅付近の鉄道高架化の実現	上下線高架化に向けた取組の実施	→									踏切による交通遮断時間(市道並松上松線)	9.8時間/日(H21)	6.7時間/日(H26(下り線高架後))	6.7時間/日(H26(下り線高架後))	0時間/日(H29(上り線高架後))	高架化により遮断時間は解消				0時間/日(H29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高架化により交通遮断時間が解消されたことが評価できる。</li> </ul>	
			高架化に伴う周辺道路等の整備	→								踏切による交通遮断時間(府道岸和田港塔原線)	9.6時間/日(H21)	5.2時間/日(H26(下り線高架後))	5.2時間/日(H26(下り線高架後))	0時間/日(H29(上り線高架後))					0時間/日(H29)			
			鉄道高架化に伴う附属街路事業用地の買収	→								JR阪和線東岸和田駅周辺道路等の整備率	70%(H30)				70%(H30)	90%(R1)	93%(R2)	100%(R3)	100%(R3)			
			付属街路事業用地の買収率	→								41.8%(R1)					41.8%(R1)	74%(R2)	90%(R3)	80.0%(R4)				
21	まちの拠点形成プロジェクト	田治米畑町線の整備	道路の整備	→								起点から終点までの到達時間(自動車)	6分(2.5km): 25km/h(R2)							6分(2.5km): 25km/h(R2)	6分(2.5km): 25km/h(R3)	1分(0.73km): 40km/h(R7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハード面の整備事業は、事業終了後に効果発現が想定されるため、現時点で評価不能。</li> </ul>	
				→								起点から終点までの到達時間(歩行者)	19分(1.5km): 80m/min(R2)							19分(1.5km): 80m/min(R2)	19分(1.5km): 80m/min(R3)	9分(0.73km): 80m/min(R7)		
22	まちの拠点形成プロジェクト	春木駅・久米田駅周辺の利便性を向上	(春木駅)周辺まちづくり基本構想の策定	→								春木駅の1日平均乗車人員	7,558人(H26)	7,662人(H27)	7,614人(H28)	7,580人(H29)	7,557人(H30)	7,582人(R1)	6,030人(R2)	6,081人(R3)	7,640人(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハード面の整備事業は、事業終了後に効果発現が想定されるため、現時点で評価不能。</li> </ul>		
			(春木駅)基本構想に基づく事業の実施	→							久米田駅の1日平均乗車人員		6,899人(H26)	6,926人(H27)	6,827人(H28)	6,823人(H29)	6,674人(H30)	6,613人(R1)	5,286人(R2)	5,434人(R3)	6,970人(R4)			
			(久米田駅)周辺まちづくり基本構想の策定	→																				
			(久米田駅)東西アクセス改善基本構想の策定	→																				
23	まちの拠点形成プロジェクト	福祉総合センター敷地の利活用検討	有効活用のための条件整理等	→							有効活用する件数	0社(R1)					0社(R1)	0社(R2)	0社(R3)	1社(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間と協働することに寄与しているため、継続的な取組が必要。</li> <li>庁舎建設の場所は別として、今後、車に乗れない人が増えるので、公共交通機関で行けるところに公共施設を集めることは重要になってくる。ここであれば、岸和田駅上の駐車場活用などもでき、手法としてPFIなども活用できる。また、事業者のテナントという点でみると、駅の山手側にあるいくつかのビルが老朽化してきており、そのあたりの企業にはニーズがあるかもしれない。</li> </ul>			
				→																				

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間										KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)								
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (年度)									
24	まちの拠点形成プロジェクト	グリーンビレッジ構想の推進	岸和田グリーンビレッジ実施計画策定	→															まちづくり(育て)活動実施回数 2回(H26) 4回(H27) 5回(H28) 4回(H29) 4回(H30) (R1累計)	3回(R1)	3回(R2)	6回(R3)	35回(R4累計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な取組が重要となる。</li> <li>将来にわたり、持続可能な拠点の形成のためにも、企業・団体・住民が主体となり、まちづくり活動に取り組むことが重要である。</li> </ul>						
			まちづくり(育て)活動参加団体数																	10団体(H28)	7団体(H30)	4団体(R1)	0団体(R2)		6団体(R3)	50団体(R4累計)				
			市外からの参画団体(企業・世帯)																	4団体(H26)	5団体(H27)	2団体(H28)	2団体(H29)		5団体(H30)	3団体(R1)	0団体(R2)	4団体(R3)	22団体(R4累計)	
			岸和田グリーンビレッジ推進事業(人材ネットワークの育成、地域資源を活かした産業の創出、拠点を支える基盤づくり)		→																10人(H28)	0人(H29)	0人(H30)		0人(R1)	0人(R2)	40人(R3)	60人(R4累計)		
25	まちの拠点形成プロジェクト	丘陵地区内に農業拠点の形成	次世代施設園芸拠点構想の策定	→															70件(ヒアリング)	77件(H27)	85件(H28)	93件(H29)	96件(H30)	103件(R1)	106件(R2)	103件(R3)	100件(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事終了後のアウトカム視点での新たなKPI設定が評価できる。</li> </ul>		
			岸和田丘陵フードバレー計画の推進		→																									
			農地の担い手への集積																		48区画(R3~R5累計)					21区画(R3)	2区画(R4)			
26	まちの拠点形成プロジェクト	ゆめみヶ丘岸和田における協働のまちづくり	各種イベント等の実施																0人(R1)				0人(R1)	123人(R2)	264人(R3)	350人(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくることに寄与しているため、継続的な取組が必要。</li> </ul>			
27	まちの拠点形成プロジェクト	木材港の充実	木材コンビナート及び貯木場への立地ニーズ等調査・分析、関係機関との調整・PR等		→																							<ul style="list-style-type: none"> <li>事業終了後に効果発現が想定されるため、現時点で評価不能。</li> <li>ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくることに寄与しているため、継続的な取組が必要。</li> <li>企業が立地できる広大な場所がない中、遊休面積が多くなっている木材港を早期に埋め立てていただきたい。その上で企業立地についても、進めていただきたい。</li> </ul>		
			貯木場活用ビジョン策定																											
			貯木場活用に係る調査等																											
28	まちの拠点形成プロジェクト	山手地区のまちの姿を検討	地域の拠点づくり構想検討業務		→																							<ul style="list-style-type: none"> <li>KPIを達成に向けた各年の進捗状況が評価できる。</li> <li>引き続き地域との協議を進めていくことが重要である。</li> <li>地区として策定した「まちづくり基本構想」に基づいて実施される地域活動回数をアウトプット指標として設定を検討するのはどうか。</li> </ul>		
			地域のエリアマネジメント方策検討業務																											
29	まちの拠点形成プロジェクト	泉州山手線沿道のまちの姿を検討	沿道まちづくり方針の策定	→																								<ul style="list-style-type: none"> <li>KPI達成が評価できる。</li> <li>ワークショップへの参加人数をアウトプット指標とすることで取組や議論の幅を広げることや、深度を深めることにつながるのではないかと。</li> </ul>		
			沿道まちづくり構想の策定(まちづくり基本調査など)			→																								
			事業化に向けた具体的な検討(区画整理事業調査など)																											
30	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	創業しようという者を支援	創業時の店舗等改装工事を補助	→																							<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスサポートセンターにおける支援とも重点的に連携し、KPIの達成に向け取り組む必要がある。</li> </ul>			
			商工会議所による創業支援(創業セミナー、創業個別相談の実施)の実施		→																									

No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間									KPI(重要業績評価指標)								外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)											
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)		目標値 (年度)										
31	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	市内企業への就労機会の拡大	関係機関との連携による地元企業説明会の実施																	合同企業説明会参加者数	-		51人 (H28)	68人 (H29)	35人 (H30)	41人 (R1) 195人 (R1累計)		200人 (R1累計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークとの連携による事業実施から、就職につながったことが評価できる。</li> <li>・情報発信方法を工夫するなどし、就職を望む方が1人でも多く仕事につけるよう、継続して取り組む必要がある。</li> </ul>			
			ハローワークとの連携による就職面接会の実施																		就職面接会による就職者数	-						実施なし		5人 (R3)	45人 (R4累計)	
32	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	青年新規就農者の育成	農業次世代人材投資資金(旧青年就農給付金)を給付																	給付金申請者数	0人 (H26)	7人 (H27)	9人 (H28)	11人 (H29)	11人 (H30)	12人 (R1)	10人 (R2)	11人 (R3)	8人/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KPIを達成していることが評価できる。一方で、新規就農者数は落ち着いているので、情報発信方法の検討も必要である。</li> </ul>		
			新規就農者育成総合対策経営開始資金を給付																		(上記のうち新規申請者数)	-	3人 (H27)	4人 (H28)	1人 (H29)	1人 (H30)	3人 (R1)	2人 (R2)	3人 (R3)		-	
33	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	産業振興制度の活用を促進	国・府・市支援制度一覧表作成																	企業支援メールマガジンの登録事業者数	100社 (H28)		100社 (H28)	109社 (H29)	198社 (H30)	200社 (R1)	213社 (R2)	234社 (R3)	235社 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KPIを達成に向けた各年の進捗状況が評価できる。もう少しKPIを増やして、重点的に取り組んでもよかった。一方でコロナの影響もあるので、結果として受け止めればよい。</li> <li>・引き続き事業の継続が重要である。</li> </ul>		
			支援制度説明会等のセミナー開催																													
			企業支援メールマガジンの配信																													
34	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	産業人材の確保・育成と企業の経営改善支援	合同企業説明会等参加支援及び市内企業が研修会等を開催または受講する際の経費を助成																	市外の合同企業説明会参加企業数	-		1社 (H28)	1社 (H29)	0社 (H30)	1社 (R1)	0社 (R2)	0社 (R3)	32社 (R4累計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の課題解決件数が目標を大きく上回っていることが評価できる。</li> <li>・ビジネスサポートセンター支援による創業件数・課題解決件数・支援件数・相談リポート率の実績について今後も注視していく必要がある。</li> </ul>		
																				人材育成取組事業所の数	-		3社 (H28)	3社 (H29)	3社 (H30)	4社 (R1)	4社 (R2)	4社 (R3)	52社 (R4累計)			
																					ビジネスサポートセンター支援による創業件数							0件 (R1)	7件 (R2)		27件 (R3)	25件 (R4累計)
																					ビジネスサポートセンター支援による課題解決件数							6件 (R1)	180件 (R2)		279件 (R3)	61件 (R4累計)
																					ビジネスサポートセンター支援件数							121件 (R1)	999件 (R2)		1109件 (R3)	1,054件 (R4累計)
																		ビジネスサポートセンター相談リポート率							75.5% (R1)	71.1% (R2)	71.3% (R3)	77.5% (R4)				
35	「ひと」を育て、「まち」を元気にプロジェクト	「岸和田ブランド」品の販売促進	岸和田ブランドの販路拡大																	催事等への出展回数	-	7回 (H27)	13回 (H28)	17回 (H29)	19回 (H30) 56回 (H30累計)	17回 (R1)	4回 (R2)	2回 (R3)	80回 (R4累計)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知度向上のためには、情報発信の工夫も必要である。認知度向上を図る指標として、催事等への来場者数(1回あたり)を設定するのはどうか。</li> </ul>		
36	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	シティセールスの推進	今後のシティセールスの方向性の整理																	「居住意欲度」府内順位	13位 (H26)		18位 (H28)	11位 (H29)	8位 (H30)	13位 (R1)	24位 (R2)	12位 (R3)	5位 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対外的な居住意欲度の府内順位の低下や、岸和田市は誇れるまちであると感じている市民の割合が基準値より低下している。KPIについて、本事業以外の影響も大きく受けると思われるため、シティセールス方針に基づいた事業(定住人口の増加や岸和田市のイメージアップのためYoutube動画による魅力発信強化など市内外に向けたPR)の効果測定できる指標の設定の検討も必要ではないか。(再生回数による効果の測定が困難であれば、例えばアウトプット指標ではあるが、シティセールス動画発信回数や、発信内容の(事業/テーマ)分類数なども考えられる。定住促進につなげるためには、子育て世代等ターゲットを絞った事業展開が求められるのではないか。)</li> </ul>		
			「岸和田市シティセールス方針」に基づいた事業の推進																		岸和田市は誇れるまちであると感じている市民の割合	53.5% (H27)	52.8% (H28)	53.4% (H29)	50.2% (H30)	50.9% (R1)	49.1% (R2)	48.1% (R3)	46.3% (R4)		55.0% (R4)	
37	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	市民みんなで岸和田をPR	職員によるSNSを活用した情報発信																	インスタグラム投稿写真等に付けられた「いいね！」の数	-				11,342件 (H29)	13,027件 (H30)	10,275件 (R1)	11,017件 (R2)	14,334件 (R3)	24,000件/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハッシュタグ「岸和田MODE」を付けてインスタグラムに投稿された写真等の数の目標値の上方修正が評価できる。</li> <li>・加えて、ハッシュタグ「岸和田MODE」を付けてインスタグラムに投稿された写真等のKPI達成が評価できる。</li> <li>・また「いいね！」の数については、目標達成できていないものの、改善されており、さらなる積極的な活用が検討が必要である。</li> <li>・インスタグラムの活用は、主に若者向けにも有用であり、さらなる積極的な活用が望まれる。</li> </ul>	
			市民によるSNSを活用した情報発信の促進																		ハッシュタグ「岸和田MODE」を付けてインスタグラムに投稿された写真等の数	-				1,380件 (H29)	2,761件 (H30)	2,636件 (R1)	2,108件 (R2)	2,246件 (R3)		2,000件/年



No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間										KPI(重要業績評価指標)										外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)					
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値(H27)	実績値(H28)	実績値(H29)	実績値(H30)	実績値(R1)	実績値(R2)	実績値(R3)	目標値(年度)								
38	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	きしわだアートプロジェクトの推進	アートによるまちの魅力創造	→										事業の参加者のうち、ターゲットとなる年代の人数	357人(H26)	573人(H27)	5,833人(H28)	367人(H29)	715人(H30)	471人(R1)	326人(R2)	296人(R3)	500人(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で人数制限があったことが影響しているであろうが、「事業の参加者のうち、ターゲットとなる年代の人数」が減少している。実績を注視し、文化の側面から、引続き、子育て世代の定住促進に働きかけられたい。</li> </ul>					
			アウトリーチのしくみづくり	→										参加者の満足度	93%(H30)	91%(H27)	94%(H28)	99%(H29)	93%(H30)	91%(R1)	91%(R2)	97%(R3)	95%(R4)						
			人材の育成	→										事業実施回数	-	3回(H27)	3回(H28)	4回(H29)	8回(H30)	7回(R1)	2回(R2)	4回(R3)	2回/年						
39	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	スポーツ振興の推進	岸和田市スポーツ推進計画の策定	→										週1回以上、運動・スポーツを実施する市民の割合	32.9%(H26)	32.5%(H28)	32.2%(H29)	31.3%(H30)	31.8%(R1)	34.8%(R2)	32.1%(R3)	44.7%(R4)	45.0%(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準値よりポイントが大きく伸びていることが評価できる。</li> <li>・要因を分析し、根拠に基づき、より効果的に事業を展開することで目標を達成できるよう取り組む必要がある。</li> <li>・延期されているワールドマスターズを契機にKPIを達成できるような事業の取組や情報発信方法などの検討が必要である。</li> <li>またワールドマスターズ以降についても実績について注視していく必要がある。</li> </ul>					
			計画に基づく事業の実施	→																									
			ワールドマスターズの大会競技(自転車競技(BMX))の誘致	→																									
			大会競技開催に向けた準備(受入れ体制構築や情報発信等)	→																									
40	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	豊かな海や陸の啓発・普及と保全	多様な生物の調査・研究と資料収集の実施	→										多様な動植物が生息していると感じている市民の割合	-	/							22.5%(R1)	25.4%(R2)	23.8%(R3)	実施なし	24.0%(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくることに寄与しているため、継続的な取組が必要。</li> </ul>	
			豊かな自然の価値を周知する展示・普及活動の実施	→										特別展・企画展の入場者数	-	/							9,063人(H30)	8,758人(R1)	5,460人(R2)	9,598人(R3)	10,000人(R4)		
			館外活動(派遣含む)参加者数	→										-	/							4,700人(H30)	4,318人(R1)	1,129人(R2)	3,112人(R3)	5,000人(R4)			
41	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	まち歩き観光の推進	だんじり3D映像の作成	→										だんじり会館来館者数	36,433人(H26)	36,394人(H27)	31,712人(H28)	34,415人(H29)	32,831人(H30)	33,412人(R1)	11,950人(R2)	11,453人(R3)	37,000人(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着地型観光のコース形成が基準値から変わらず「0」のままである。着地型の観光コースの形成は、より多くの観光客の獲得につながる。岸和田市の活性化に大きく寄与されるものと考えられるので、対応が急がれる。</li> </ul>					
			動画等を活用したPRの実施	→										岸和田城入場者数	43,397人(H26)	41,345人(H27)	38,165人(H28)	41,565人(H29)	38,500人(H30)	43,397人(R1)	25,212人(R2)	25,392人(R3)	50,000人(R4)						
			近隣市町等との連携で実施する観光情報発信や受入環境整備等による誘客促進(KIX泉州ツーリズムビューロー連携事業)	→										着地型観光のコース形成	0コース(H28)	/							0コース(H29)		0コース(H30)	0コース(R1)	0コース(R2)	0コース(R3)	5コース(R4)
			岸和田城隅櫓宿泊体験の実施	→																									
			着地型体験プログラムの開発	→																									
42	岸和田のええとこ教えちゃろプロジェクト	インバウンド観光の推進	インバウンド誘致観光動画の作成	→										岸和田城におけるインバウンド入場者数	2,261人(R1)	/							2,261人(R1)	137人(R2)	124人(R3)	10,000人(R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響を受け海外からの観光需要が不明瞭なため、圏域内の旅行者にターゲットを絞った取組やその方たちから情報発信をしてもらえるような取組の検討と並行して、岸和田市の活性化につながる事業の実施も必要である。</li> </ul>		
			効果的な集客のための調査・検証及び試行	→										訪日外国人における泉州の認知度	14.8%(H28)	/							14.8%(H28)	13.0%(H29)	/			20.0%(R4)	
			情報発信による認知度のさらなる向上	→										泉州地域の訪日旅行者数(単位:万人)	159万人(H29)	/							159万人(H29)	197万人(H30)	392万人(R1)	未取得(R2)		未取得(R3)	420万人(R4)
				→										訪日旅行者の泉州地域の来訪者満足度(単位:ポイント)	5.2ポイント(H29)	/							5.2ポイント(H29)	6.2ポイント(H30)	6.5ポイント(R1)	6.2ポイント(R2)		6.2ポイント(R3)	7.0ポイント(R4)



No	プロジェクト名	取組名	実施内容	事業期間										KPI(重要業績評価指標)									外部有識者の意見 (岸和田市総合戦略に係る事業効果検証等アドバイザー会議における意見)		
				H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	指標内容	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	目標値 (年度)				
43	地域の安心・安全プロジェクト	防犯カメラの設置	防犯カメラを設置する町会等への補助	→										防犯カメラの設置箇所	72箇所 (H26)	112箇所 (H27)	167箇所 (H28)	220箇所 (H29)	272箇所 (H30)	324箇所 (R1)	379箇所 (R2)	433箇所 (R3)	327箇所 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な取組によるKPI達成が評価できる。</li> <li>設置の成果を図る指標が必要ではないか。刑法犯罪検挙件数などの設定を再度検討されたい。多面的な要素ではあるものの、地域別比較や経年比較をすることで、防犯カメラの犯罪の抑止力としての成果として参考にすることはできるのではないか。</li> </ul>	
44	地域の安心・安全プロジェクト	市内木造住宅の耐震化	耐震化に関する啓発・広報活動	→										耐震診断補助戸数	69戸 (H26)	66戸 (H27)	80戸 (H28)	43戸 (H29)	73戸 (H30)	29戸 (R1)	40戸 (R2)	59戸 (R3)	50戸/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き事業の継続が重要である。</li> </ul>	
			耐震診断・耐震改修工事費に対する補助金の交付	→										耐震改修工事(耐震シェルター含む)補助戸数	24戸 (H26)	29戸 (H27)	27戸 (H28)	16戸 (H29)	15戸 (H30)	18戸 (R1)	12戸 (R2)	5戸 (R3)	23戸/年		
			耐震シェルター設置費に対する補助金の交付	→										ブロック塀等撤去補助件数				28件 (H30)	39戸 (R1)	36戸 (R2)	21戸 (R3)	50件/年			
			旧耐震基準(昭和56年5月以前)の木造住宅の除却費に対する補助金の交付	→																					
			岸和田市住宅・建築物耐震改修促進計画 第2期の策定	→																					
			ブロック塀等の撤去に対する補助金の交付	→																					
45	地域の安心・安全プロジェクト	空家等対策の推進	空家等対策計画の策定	→										不良空き家除却補助件数	7件 (R1)				7件 (R1)	7件 (R2)	7件 (R3)	10件/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトカム視点で設定されたKPI設定(空家相談件数に対する是正率)の達成が評価できる。今後も実績について注視していく必要がある。</li> </ul>		
			岸和田市空家等対策協議会の事務	→										空家相談件数に対する是正率	56.8% (R1)				61.1% (R2)	68.3% (R3)	60% (R4)				
			空家等の適正管理及び利活用の促進	→																					
			特定空家等の判断及び措置	→																					
			不良空き家の除却費に対する補助金の交付	→																					
			空家住宅の改修に対する補助金の交付	→																					
46	地域の安心・安全プロジェクト	マンションの管理適正化の推進	岸和田市マンション管理適正化推進計画の策定および進捗管理	→										市内の分譲マンション所有者、管理組合員のマンション管理適正化推進計画の認知度										後年度以降に設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画策定事業終了後に効果発現が想定されるため、現時点で評価不能。</li> </ul>
47	地域の安心・安全プロジェクト	地域の自主防災力の向上	防災福祉コミュニティの活動支援	→										防災福祉コミュニティ主催地域防災訓練実施割合	78.7% (H27)	78.7% (H27)	75.4% (H28)	65.2% (H29)	52.8% (H30)	55.7% (R1)	5.6% (R2)	6.9% (R3)	100% (R4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくることに寄与しており、継続的な取組が必要。</li> </ul>	
			防災資機材の整備に対する補助金の交付	→																					